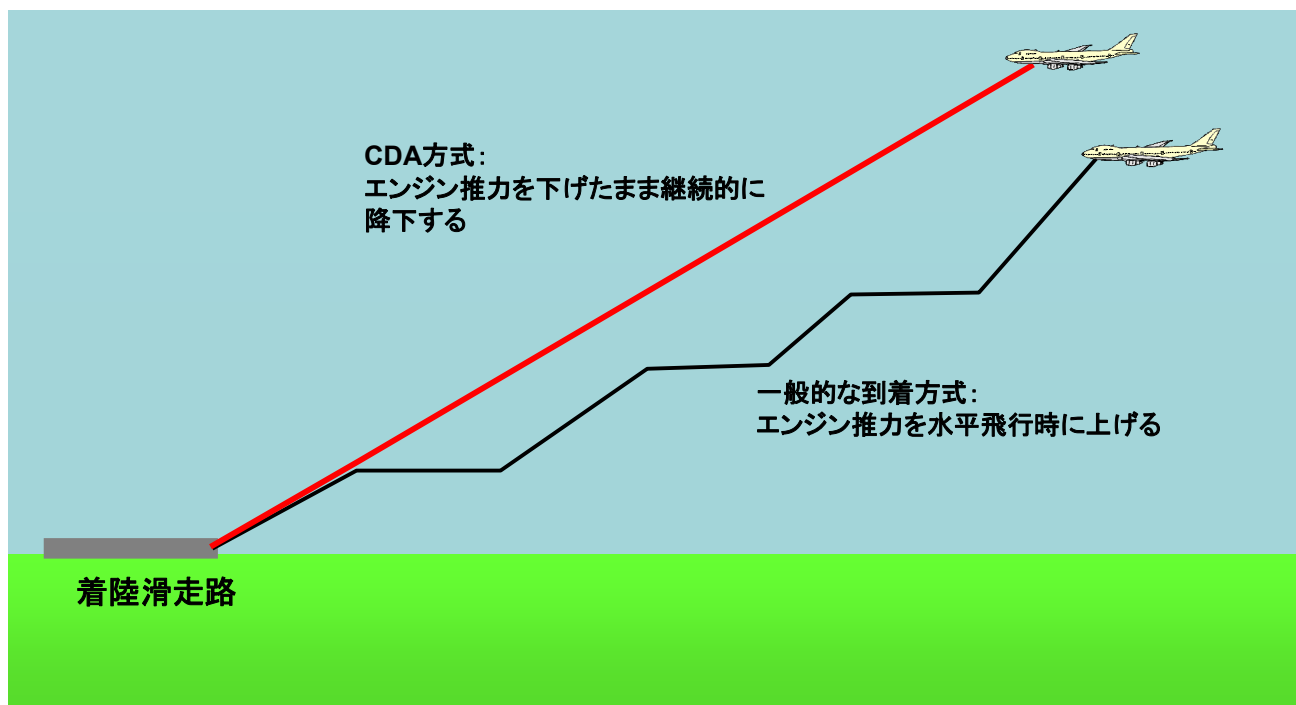


## CDA方式と一般的な到着方式の比較(イメージ)



### 【参考】

#### 関西国際空港でのCDA導入効果の試算(当面の5機分)

消費燃料削減量(年間) 約47万リットル  
ドラム缶(200ℓ)換算で、約2,360本

CO<sub>2</sub>削減量(年間) 約1,160トン  
一般家庭(年間排出量5.2トン)で、約223世帯分  
樹齢50年のスギの木に換算して、約83,000本分

一般家庭の年間排出量は、(独)国立環境研究所・「温室効果ガスインベストリオフィス」による  
樹齢50年のスギの木が1年間に吸収するCO<sub>2</sub>は14kg(林野庁による)

削減金額(年間) 約1,800万円

シンガポール市場のケロシン価格の2009年4月第2週の平均値(1ガロン=1.48ドル)で算出  
1ドル=99円(2009年4月5日の為替相場)で算出

※ 2009年3月の関西国際空港での飛行実績を基に、B767型機で1日5回のCDA方式が実施された場合を想定。  
2009年3月29日から始まった夏ダイヤでは、対象時間帯で本邦航空機は1日平均5機の実績。  
(B767型機が1回のCDA方式の実施により削減可能な燃料は約460ポンドとして算出)